

| | |
|-------------------|---|
| | 東京農工大学 農学分野 |
| 学部等の教育研究 組織の名称 | 農学部（第1年次:300） 大学院農学府（M:174） 大学院連合農学研究科（D:45） 大学院生物システム応用科学府（M:69 D:28） |
| 沿革 | <p>明治19（1886）年 農商務省東京農林学校を設置</p> <p>明治23（1890）年 帝国大学農科大学乙科を設置</p> <p>明治31（1898）年 帝国大学農科大学実科に改組</p> <p>大正8（1919）年 東京帝国大学農学部実科に改称</p> <p>昭和10（1935）年 東京高等農林学校を設置</p> <p>昭和19（1944）年 東京農林専門学校に改称</p> <p>昭和24（1949）年 新制東京農工大学農学部を設置</p> <p>昭和40（1965）年 大学院農学研究科修士課程を設置</p> <p>昭和60（1985）年 大学院連合農学研究科博士課程を設置</p> <p>平成7（1995）年 大学院生物システム応用科学研究科博士前期・後期課程を設置</p> <p>平成16（2004）年 大学院を改組し、農学教育部、大学院生物システム応用科学教育部に再編</p> <p>平成18（2006）年 農学教育部、生物システム応用科学教育部を農学府、生物システム応用科学府に改称</p> |
| 設置目的等 | <p>東京農工大学農学部の前身である農商務省東京農林学校は、農林業の拡充、これを担う人材の育成を目的として、同省所管の駒場農学校と東京山林学校を統合して、明治19年に設置された。</p> <p>明治23年、東京農林学校は文部省所管の帝国大学と統合して帝国大学農科大学乙科となり、明治31年には帝国大学農科大学実科に改組された。</p> <p>帝国大学農科大学実科は、大正8年の東京帝国大学農学部実科への改称を経て、昭和10年に東京高等農林学校として設置され、昭和19年に東京農林専門学校に改称された。</p> <p>昭和24年の新制国立大学の発足時には、東京農林専門学校は、東京農工大学農学部として承継された。</p> <p>高度経済成長のなか、農林業を近代化し生産性を急速に向上させることのできる高度な独創力のある人材への需要が高まり、昭和40年に農学研究科が設置された。</p> |

| | |
|---------------------|--|
| | <p>昭和60年、バイオサイエンス、特に生物利用科学に関する高い専門的能力と豊かな学識を身につけた研究者を養成し、バイオサイエンスの進歩と生物関連産業分野の発展に寄与することを目的に、東京農工大学を基幹大学、茨城大学及び宇都宮大学を参加大学とする連合農学研究科が設置された。</p> <p>平成7年、農学・工学を融合して新しい科学技術を創造し、高い研究能力と豊かな学識を身につけ、幅広い視野を持ち高度な応用的専門知識と技術を有する人材の養成を行うことを目的に生物システム応用科学研究科が設置された。</p> <p>平成16年、大学院における教育と研究に重点をおいた大学院基軸大学として、教育研究の推進を通じて人類の生存と繁栄及び美しい地球の持続に貢献することを目的に、農学教育部（現農学府）、生物システム応用科学教育部（現生物システム応用科学府）が設置された。</p> |
| <p>強みや特色、社会的な役割</p> | <p>東京農工大学においては、世界の平和と、社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、農学、生命科学、環境科学、獣医学分野における諸課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを理念として、農工連携の教育研究及び社会貢献に取り組んでいる。</p> <p>特に法人化後を中心として、テニュアトラック制度の積極的な導入や女性研究者支援制度の拡充など、不断の改革により研究力の強化や人材養成に取り組んできた実績を生かし、今後も更なる組織改革や大学院博士課程指導資格の再審査制度の導入等を踏まえた教員の人事制度改革を図り、研究力の向上とグローバルイノベーション人材の養成に寄与できる制度改革を推進しており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 農学、生命科学、環境科学、獣医学分野において、広く知識を授けるとともに専門の学芸を教授し、実践的なフィールド学習を通して、知的、道徳的及び応用的能力を展開させて、教養豊かで国際社会で指導的な役割を担える高度な専門職業人等の育成の役割を果たすとともに、高い研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。</p> <p>○ グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院プログラム、アジア・アフリカ現場立脚型環境リーダー育成プログラム、アグロイノベーション研究高度人材養成プロジェクトなどの特色のある教育を進めてきた実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を進める。社会的ニーズを踏まえて、大学院の教育体制を再編成し、グローバルに活躍できる農学系人材を育成する学部・</p> |

大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。

- イネ新品種開発などの食糧科学、応用生物化学分野におけるゲノム情報解析、エアロゾル及び海洋プラスチックの動態解析などの環境科学をはじめとする特色のある研究を実施する。また、農学及び森林科学分野における高い国際評価を生かし、先端的な研究及び農工融合研究を総合的に推進し、我が国の農学の発展に寄与する。
- 従来からの強力な産学連携体制を維持・発展させるとともに、基礎研究と応用研究をあわせて推進することにより実現している受託研究・共同研究の受入れや特許取得数、論文数の伸び率における高い実績を生かし、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進し、イノベーションを生み出す。
- 社会的ニーズの高い獣医師のリカレント教育の実績を生かし、農学系資格所有者の掘り起こしや、スキルアップ・再就職支援を実施する。今後も社会人の学び直しを支援する教育体制を一段と充実させる。
- ベトナム、ブラジル、ウズベキスタン等における国際協力機構草の根技術協力事業の実績を生かし、学生・研究者による国際共同研究・交流・貢献を推進する。